ふしぎなフーセンガム

みんなそれぞれ

3年　S・Wさん

　ようち園の時におぼえたゆびあみは、なかなかすごい。ただの細長い毛糸がどんどん形をかえ、かわいい作品になるのだ。あんだ後にやさしく引っぱると、みょんみょんとのびるのも楽しい。もしぼくがじゅんくんのとなりにいたら、

「いっしょにゆびあみで遊べたのにな。」

と本を読みながら思った。

　だからさいしょ、やまんばみこが登場した時はぼくも苦手な感じがした。元気に外で遊ぶのがすきな子も、ゆびあみをしたり絵をかいたりするのがすきな子もいる。ただ、それをおしつけてほしくないのだ。じゅんくんはお母さんにも、まわりの子にも「男の子らしさ、女の子らしさ」をおしつけられている。そのため、リスと話している時のじゅんくんも「女の子なのに」という言葉をつかってしまっていた。ぼくはじゅんくんに、

「そんなこと気にしなくていいよ。」

と教えてあげたくなった。

　つづきを読むと、ついに「ふしぎなフーセンガム」が登場した。ものすごいまほうなのに、じゅんくんはものすごいへんしんをしなかった。もったいないな、とぼくは思った。それだけ「男の子らしさ、女の子らしさ」を気にしていたなんて。そして、そんなことを気にしなくていいと教えてくれたのは、なんとやまんばみこ。ぼくはびっくりした。やまんばみこはお父さんから「女らしく」と言われても、自分らしいことのよさを曲げなかった。こんなにかっこよく強気でいられるなんて、ぼくにできるだろうか。

　じゅんくんに大切なことを気づかせたのは、やまんばみこだった。さいしょは苦手だと思っていたのに、だんだんといいところがぼくにも見えてきた。「らんぼうな子」だと決めつけて、こわいあだ名でよぶのはよくない。じゅんくんはじゅんくん、山田さんは山田さんなのだ。みんなそれぞれ、自分らしさがあることをおぼえておこう。